寄稿

複雑な医療をシンプルにデザインする

小林 啓　株式会社 CureApp UX/UI デザイナー

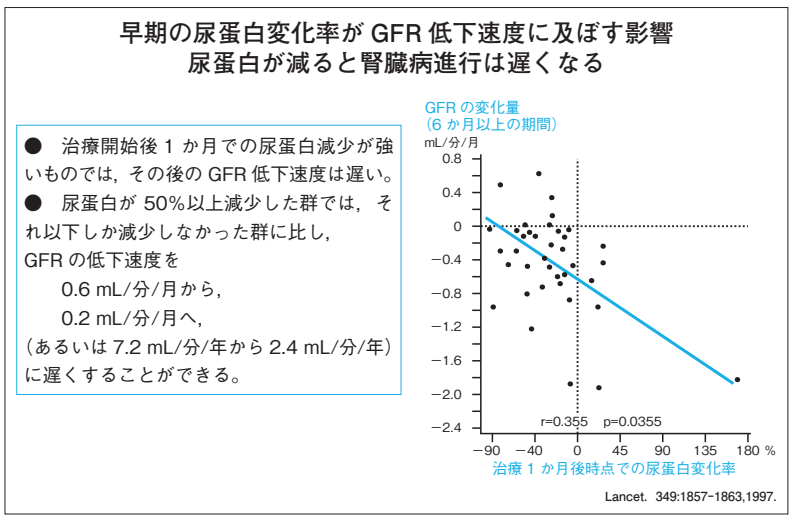
●こばやし・けい氏
2009年京府医大卒。精神科専門医，医学博士。16年より医療者向けのスライドデザイン講座を開講し，19年に「医療スライドデザイン部」を立ち上げる。デザインと医療をつなげることに大きな可能性を見いだし，21年より現職に就く。近著に『医療者のスライドデザイン』（医学書院）。

医療は複雑なデザインに溢れている

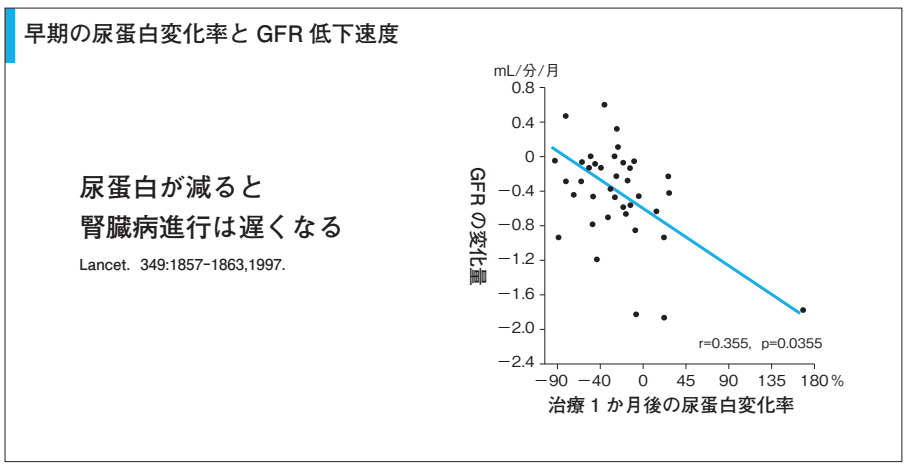
インターネットとスマートフォンの普及により，多くの情報にアクセスすることが日常になりました。普段使っているスマートフォンアプリと，病院で使っている電子カルテなどを比べた時「どうしてこんな複雑で見づらい画面なんだろう？」と感じたことはないでしょうか？　もし全く感じたことがなければ，それは「医療で扱う情報は複雑なもの」という固定観念に慣れきっているかもしれません。

実際に医療は常に膨大な情報を扱い，診察や検査の情報を比較して難しい意思決定を下す仕事です。そのため，医療機器や医療コミュニケーションがある程度複雑になることは避けられません。しかし，こうした複雑なデザインをよりシンプルに，より伝わりやすくするための努力はできているでしょうか？　たとえ情報が複雑であっても難解さを減らすことはできますし，不要な情報は確実に理解の妨げになります。

「医療で扱う情報は複雑なもの」と割り切り，問題のあるデザインを放置してしまうと，将来の大きなリスクにつながってしまいます。



●図1　BEFORE
余計な情報が多く，何を最も伝えたいかがわかりづらい。



●図2　AFTER
情報をシンプルにすることで，伝えたい内容が格段に伝わりやすくなる。

シンプルなデザインを求める理由

複雑なデザインを放置することのリスクはいくつか挙げられますが，最も大きな懸念は医療ミスの増加です。医療で扱う情報は増えることはあっても，減ることはほとんどありません。また，電子カルテなどでめったに使わない機能でも「いつか誰かが必要になるかもしれない」と考え，つい残してしまいます。そうなると自ずとデザインは複雑になり，扱う医療者の認知負荷は高くなります。認知負荷が高まるほど判断を誤るリスクは増加し，医療ミスは当然人命にかかわります。デザインの考え方では「ミスの原因は犯した人間ではなく，不適切なデザインにある」とされており[1]，デザインを改善することで医療ミスと医療者のストレスを減らすことができます。

もう一つの問題は，変化への対応が鈍くなることです。現代社会は非常に移り変わりが激しく，医療の世界でもデジタル化など多くの変化が求められています。しかし，医療を改善させるためのプロセスが複雑にデザインされているため，変化への対応は常に鈍く，莫大なコストも浪費してしまいます。あれもこれもしたいという詰め込み型の発想ではなく，無駄を見極めたシンプルなデザインをいかに開発の初期段階から構築していくかが未来の医療に求められます。

まずはプレゼンテーションのデザインから始めたい

ここまで，医療にシンプルなデザインをもたらす大切さをお伝えしました。それでは，私たち医療者一人ひとりがデザインの視点を持つことで医療にどう貢献できるでしょうか？　電子カルテのデザインを刷新することや，新しい医療機器を作ることは個人の力ではなかなかできません。しかし，ほとんどの医療者が直面するデザインの課題があります。それがプレゼンテーションです。

すでにデザインを学ばれ，素晴らしいプレゼンテーションができる医療者も多くいますが，デザインの基本的な発想を取り入れることで，改良できる余地がまだまだあります。

例えば，**図1**のスライドをシンプルにするにはどう考えればいいでしょうか？

①情報の重要度をトリアージする
自分の持っている情報を全てスライドに書き込むのではなく，どの情報が伝えたいのかを整理していく作業が大切です。伝えたい情報を一度書き出して客観視し，重要度を選別していきましょう。

②メッセージを強調する
スライドに文字を書けば聴講者に伝わるわけではありません。情報が多くなるほどどれが大切な情報かわからなくなり，読み疲れるばかりで全く伝わらなくなります。一枚のスライドに対して最も伝えたいメッセージを定め，そのメッセージが強調されるデザインにしましょう。最も強い強調の方法は「そのメッセージ以外を書かないこと」です。

③スライドに頼らない
スライドに書かれた文字を棒読みするプレゼンテーションはもうやめましょう。プレゼンテーションは視覚と聴覚による情報伝達です。特にオンラインでは，聴覚への意識が高くなります。スライドをどう作るかよりも，プレゼンターが何をどう話すかを徹底して作り込むことが大切です。スライドが必要ないほど話の完成度を高めることができれば，自然にスライドはシンプルなものになります。

上記の視点を基に作成し直したのが**図2**です。情報をシンプルにすることで，最も伝えたい内容が格段に伝わりやすくなります。

プレゼンテーションを作る過程では，情報の整理，ユーザーを中心とした設計，人間の認知の理解など，さまざまなデザインの要素を知ることができます。

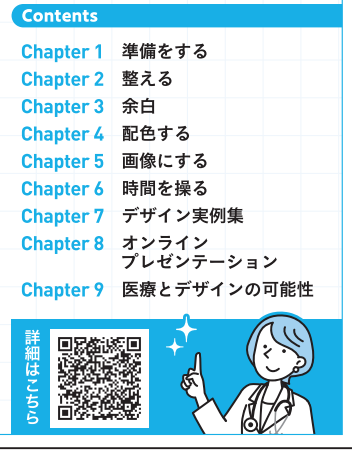
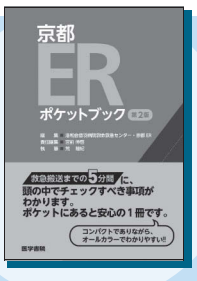
こうした私の持つデザインのテクニックを『医療者のスライドデザイン』（医学書院）という本にまとめました。プレゼンテーションに悩む全ての医療職の方，医学生の方にぜひお読みいただけると嬉しいです。また，医療スライドデザイン部の Facebook グループ（QR コード）では，医療者同士のスライドデザインに関するピアスタディを行っています。こちらもお立ち寄りください。

医療とデザインの可能性について，一緒に考えていきましょう。

●参考文献
1）岡本明，他（訳）．「誰のためのデザイン？」増補・改訂版．新曜社；2015.

医療スライドデザイン部の Facebook グループページは右記 QR コードよりご覧いただけます。

プレゼンテーションに悩む、すべての医療者・学生へ
医療者のスライドデザイン
プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書
小林 啓
●B5変型　2023年　頁200　定価:3,740円（本体3,400円+税10%）[ISBN978-4-260-04773-9]
デザイナー兼現役医師による、医療系スライドをデザインの視点から徹底的に解説する指南書。伝わるデザインにはルールがあり、ポイントを押さえることで医療のプレゼンテーションは大きく改善します。
デザインの理論だけでなく、幅広い職種に応じた多くの実例スライドを紹介し、BEFORE / AFTER形式で具体的に理解することができます。
演習問題や実例スライドを特設サイトからダウンロードし、手を動かすトレーニングが可能です。
スライドの他にも、研究ポスター、チラシ、オンラインプレゼンテーションなど、医療者が直面するデザインを見やすく、伝わりやすくするためのテクニックを多数紹介します。
Contents
Chapter 1　準備をする
Chapter 2　整える
Chapter 3　余白
Chapter 4　配色する
Chapter 5　画像にする
Chapter 6　時間を操る
Chapter 7　デザイン実例集
Chapter 8　オンラインプレゼンテーション
Chapter 9　医療とデザインの可能性
詳細はこちら
医学書院



救急診療のバイブルとして、ぜひ白衣のポケットに！
京都ERポケットブック 第2版
ER研修の壁を乗り越えるサポーターとして、上級医の頭の中を言語化してコンパクトにまとめるという趣旨はそのままに、第2版では日々の臨床の中で研修医との対話を通じて浮かび上がった皆が躓くERでのポイントを意識して改訂。また主訴別アプローチの「アタマの中」は文字+イラストやフローで図示し、緊急性の高い病態対応の大きな幹をイメージ化し捉えやすくすることを目指した。
編集　洛和会音羽病院 救命救急センター・京都ER
責任編集　宮前伸啓
執筆　荒　隆紀
A6　頁528　2023年　定価:4,180円[本体3,800円＋税10%]　[ISBN978-4-260-04988-7]
医学書院